

社会科学の研究評価に求められる多面性 ：政治学と環境学の観点から

第1回 SPARC Japan セミナー2015

野村 康

(名古屋大学環境学研究科)

政治学の観点から(1)

- 自然科学分野の研究評価（本セミナーの「概要」から）
 - 研究論文や特許等の掲載数や引用回数等の**数値**
- 政治学(法学・社会学・人文地理学等の隣接分野も同様?)
 - 媒体の特性(1)：本（単著）の文化
 - 媒体の特性(2)：「紀要文化」
 - 論文の特性(1)：長さ（文字数／研究スパン）の違い
 - 論文の特性(2)：共著が少ない
 - 論文の特性(3)：日本語が多い

⇒成果数・被引用数が少なくなる傾向／質をどう測るか？

- 発表形態の特性を踏まえた評価

政治学の観点から(2)

- 自然科学的(量的)評価への傾斜⇒研究の偏り

- 若手政治学者の例

- 計量的分析の増加・・・一因として量的評価（論文数／人事採用）

- 菅原琢(2010)「アメリカ化」する日本の政治学—政権交代後の研究業界と若手研究者問題. 東浩紀・北田暁大[編]思想地図 Vol.5, pp.381-405.

⇒学術的發展にとってマイナス？

- 社会科学—認識論の違い（実証主義／批判的实在論／解釈主義）

- 社会科学 = 社会／社会的課題に関する学問

- 研究のインパクト = 社会の理解と社会的課題の解決への貢献

- 「象牙の塔」にこもらず、社会との関わり

⇒その評価は？

- 学問の発展とアウトリーチの貢献を考えた評価

環境学の観点から

- 環境問題の解決／持続可能な社会づくりへの貢献
 - 既存の大学評価基準（ランキング等）が障害となっている
 - 環境教育学・ESD論における議論

⇒研究の方向性・実際の貢献も評価すべきでは？

- 新たな評価（例）
 - 米：STARS(The Sustainability Tracking, Assessment & Rating System)
 - 教育／研究／運営／アウトリーチ

● 研究の方向性とアウトリーチの貢献を踏まえた評価

まとめ

- 社会科学の研究評価は以下を考慮して多面的に
 - [学問的特性]
 - 発表形態（媒体・論文）の特性
 - 学問の発展
 - [社会的課題]
 - 方向性（社会的課題解決への貢献）
 - アウトリーチの貢献